NISE RESEARCH SNAPSHOT No. 05　2007 年 2 月版

特別支援教育コーディネーターの役割とは？どのような活動があるのか？そのために必要となる資質・技能は？また、研修はどのように進めればいいのでしょうか？

【研究を行った結果・提言】

「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」では、特別支援教育コーディネーターは、保護者や関係機関に対する学校の窓口として、また、学校内の関係者や福祉、医療等の関係機関との連絡調整の役割を担う者として、位置付けられています。

特別支援教育を推進するための諸活動と特別支援教育コーディネーターに必要とされる資質や技能には次のようなものがあると考えられます。

特別支援教育コーディネーターの活動と資質・技能

役割	活動と必要な力	そのための資質や知識・技能	
保護者の相談の窓口	保護者の心配なことに耳を傾け，その状況を把握し，支援につながる次のステップへ導くための力	カウンセリングマインド	カウンセリング技能
		障害についての知識	アセスメントの技能
校内の教員の相談の窓口	教員の心配なことに耳を傾け，その状況を把握し，支援につながる次のステップへ導くための力	カウンセリングマインド	カウンセリング技能
		障害についての知識	アセスメントの技能
校内外の関係者との連絡・調整	校内外の関係者から情報を集め，支援のための知恵や力を引き出し，チームワークを形成する力	情報収集・活用の技能	交渉する力
		ファシリテーション技能	人間関係を調整する力
地域の関係機関との連絡・調整連携とネットワークの構築	地域の関係機関の情報を集め，関係者間をつなぎ，支援のためのネットワークを形成する力	情報収集・活用の技能	交渉する力
		ファシリテーション技能	人間関係を調整する力
教育的支援の充実	校内支援体制の整備，理解啓発，支援・指導の研究・研修等の推進，地域への啓発や支援を推進する力	障害についての知識	個別の指導計画・個別の教育支援計画の知識
		特別支援教育に関する知識	教科指導や学級経営に関する知識・技能

「特別支援教育コーディネーター実践ガイド」 所収

これらの知識や技能は、一人の教員が、はじめから全てを備えているものではありません。経験や研修を積み上げる中で、少しずつ広げたり、深めたりしていくものです。また、それらの技能や資質を持っている他の教員と連携・協働し、チームアプローチで取り組むことも必要です。

特別支援教育コーディネーターの研修は、これらの資質・技能の向上を目指すものです。

特別支援教育コーディネーターの役割は、それぞれの学校で特別支援教育を推進することです。特別支援教育に関わる教育活動は多岐にわたりますが、その各プロセスで、関わり合う人達を繋ぎ、知恵と力を引き出し、児童生徒への支援に結びつけていくことです。

本研究では、これまでの教員研修では取り組むことの少なかった関係者間を調整する機能に関する研修プログラムの研究開発を行いました。

【研究結果の効果・効用】

この研究の成果は、**「特別支援教育コーディネーター実践ガイド」**及び**「特別支援教育コーディネーター養成研修マニュアル」**にまとめられています。

各学校の特別支援教育コーディネーターの先生方には、「特別支援教育コーディネーター実践ガイド」の活用が期待されます。

特別支援教育に必要な諸活動を進めるために、校内外の関係者間の連携を紡ぐために、また、児童・生徒への個別的支援を実現させるための手がかりとなる様々な知見が整理されています。

各自治体の教育委員会で研修を企画・立案する方々には、「特別支援教育コーディネーター養成研修マニュアル」の活用が期待されます。

特別支援教育コーディネーター養成研修の企画・立案の考え方、特別支援教育コーディネーターの連絡・調整機能を培う研修プログラム例、各自治体で実施されている特別支援教育コーディネーター養成研修の実施状況や特色ある特別支援教育コーディネーター研修など、特別支援教育コーディネーター養成研修の企画・立案に資する情報が掲載されています。

【研究結果の活用】

研究成果物である「特別支援教育コーディネーター実践ガイド」は、自治体で開催される研修のテキストとして、初任の特別支援教育コーディネーターが基本的事項を整理するための資料として活用されました。

また、この研究で開発した特別支援教育コーディネーターの連絡・調整機能を培う研修プログラム「ファシリテーション演習」は、自治体で開催される特別支援教育コーディネーター研修で活用され、特別支援教育コーディネーターの資質の向上に寄与しています。

研究成果を活用し実施した各研修に参加した教職員からは、校内外の関係者間の連絡・調整の役割の意味や具体的な活動について理解できたことや連絡・調整機能を実現するためのファシリテーションの意義やその技能について具体的に理解できたことなど高い評価を受けています。

［ファシリテーション演習］

演習１：話し合いを推進するファシリテーション

「コーディネーターの資質」についての価値交流学習

演習２：問題解決を推進するファシリテーション

「障害のある子どもの運動会のクラス対抗リレーへの参加」

「特別支援教育コーディネーター養成研修マニュアル」 所収

【関連情報】

「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（平成１５年３月）、「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」（平成１７年１２月）を経て、学校教育法の一部の改正（平成１９年４月１日施行）が成立し、特別支援教育は、理念と制度の両面で、明確に置付けられることになりました。

特別支援教育は、LD・ADHD・高機能自閉症等を含めた障害のある児童生徒の一人一人の教育的ニーズに応じた支援を校内外の関係機関・者のチームワークとネットワークによって実現する新しい教育の考え方です。

特別支援教育コーディネーターは、児童生徒への適切な支援のために、関係機関・者間を連絡・調整し、協働的に対応できるようにするための役割を担う者として指名されています。

特別支援教育は、専門家チーム、巡回相談員の機能の整備、特別支援連携協議会の機能の整備、教職員の意識の変革、学校経営の一層の改善など全ての教育関係者の工夫と努力によって実現するものです。特別支援教育コーディネーターは、それらの環境の整備と一体となって機能するものです。

この研究は、新たに、プロジェクト研究「小・中学校における特別支援教育への理解と対応の充実に向けた総合的研究」（平成１８年度～１９年度）に引き継がれ、今後とも、特別支援教育の推進に関連するさまざまな知見を収集・開発し、整理・提供することに取り組んでいます。

その成果は、今後の特別支援教育の一層の充実を実現するための手だてとして期待されます。

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題名】

特別支援教育コーディネーターに関する実際的研究

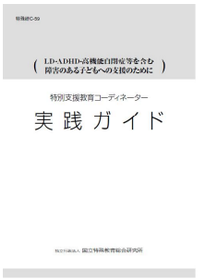
（平成 16 年度～平成 17 年度）

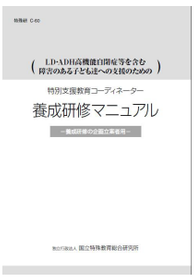
【研究代表者名／問い合わせ先】

研究代表者
教育研修情報部　総括研究員　松村　勘由
e-mail　kanyu@nise.go.jp

【研究成果物】

①特別支援教育コーディネーター養成研修マニュアル (18.3)
②特別支援教育コーディネーター実践ガイド (18.3)
③特別支援教育コーディネーターに関する実際的研究」報告書 (18.3)





なお、研究成果物は、研究所Ｗｅｂページに掲載しています。

独立行政法人国立特殊教育総合研究所（National Institute of Special Education; NISE）
〒 239-8585 横須賀市野比 5-1-1 TEL: 046-839-6890 URL: http://www.nise.go.jp/